

## はじめに

北海道大学理学部 赤石 義紀

日本で生産される核反応データの収集に責任を持つことを目標に、荷電粒子核反応データベース (NRDF) 作成を事業として続けてきましたが、はやくも四年が経ちました。原子核研究の動向にも最近変化が出て来ています。原子核反応のエネルギーが上がってきて、反粒子とか”奇妙さ”を持った粒子とかを扱う必要が増えて来ました。これらに適切に対処するために来年度は辞書などを完備しようと思っていますが、今年度は従来 of 枠に入るものをデータとして蓄積しました。蓄積データはかなりの量に達しましたので、これらを使って新しい利用法を考え試みるのが可能となってきました。利用法に関するアイデアを寄せて下さい。私ども管理運営委員会では、いくつかを試みたいとおもっています。また、新しい型のデータの収集に関しては、原子核実験研究者の御意見をお聞きして対処したいと思っています。

国際協力によって長期に安定したデータベースを維持していくことが、もう一つの課題です。今年度は、国際原子力機関 (IAEA) で核反応データセンター (NRDC) のテクニカル・ミーティングが行なわれました。これに千葉正喜氏が出席し、データ交換について詳細な打ち合わせをおこなってきました。

蓄積データが増えて来たこと、核反応の種類が時とともに少しずつ変わって来たことを踏まえながら、荷電粒子核反応データベース (NRDF) の今後 to 検討を加え、より良いものを作りあげようとしています。ひきつずき、率直な御意見と御批判を乞う次第です。